

九州地整

九州地区官庁施設保全連絡会議

保全計画の作成を

節電対策などについても情報を交換した会議＝鹿児島市の鹿児島地方合同庁舎で



九州地方整備局鹿児島支所事務所は15日、九州地区(鹿児島)官庁施設保全連絡会議を鹿児島市の鹿児島地方合同庁舎で開いた。整備後30年を超えている施設が約半数を占めていることから、中長期保全計画を作成し

九州地方整備局鹿児島支所事務所は15日、九州地区(鹿児島)官庁施設保全連絡会議を鹿児島市の鹿児島地方合同庁舎で開いた。整備後30年を超えている施設が約半数を占めていることから、中長期保全計画を作成し、力発電所の事故をきっかけに低減に努めることや節電対策について情報交換を行った。

同連絡会議は、県内の各官庁・地方自治体・独立行政法人の施設保全担当職員を対象に毎年開催。今回は50人が参加した。東京電力福島第1原子力発電所の事故をきっかけに低減に努めることや節電対策について情報交換を行った。

県建築技監に就任した 西蘭 幸弘さん



「的確な建築確認や良質な県有施設の整備などを進め、安全安心な地域づくりに取り組む」と、前任の県建築課長から建築技監に就任し抱負を語る。

近年、全国的に災害

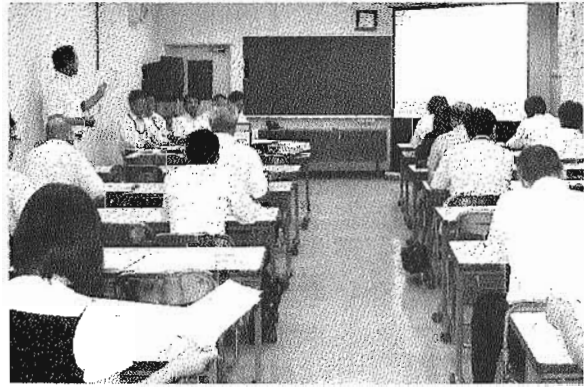


策室サイドでは木造の公営住宅建築の計画もあり、横断的な連携で相乗効果も上がる」と

日本全体が高齢化や少子化が進み、あらゆる分野で技能者不足が顕著に。「業界だけでなく、行政側も技術力の継承が問われている。期待にこたえられるよう県庁内部でも技術力の確保はおろそかにできない」と指摘する。

地元企業には底力

平成15年に担当した鹿児島中央駅前の地下通路工事は、土木工事をしながら建築工事を進めた。鹿児島市交通局や警察などの調整が



活発な意見交換が行われた市政出前トーク＝鹿児島市の中央公民館で

今後、中長期の需要予測に基づき修繕計画(中長期保全計画)の作成が重要になってくると結論

鹿児島市は「事前のアンケート調査に基づき、

冒頭、鹿児島市の前田博之建築課長が「本市は施設の老朽化や維持保全費の増大など、さまざまな課題を抱えている。活発な意見交換の場にしてもらいたい」と挨拶した。

出前トークでは、「鹿児島市の公共建築物の現状と長寿化」をテーマにストックマネジメント事業の概要と維持保全計画について説明。高度経済成長期に建設された建築物が増大している現状に触れ、「老朽化に伴う機能劣化や維持保全コストの増大が大きな問題」とした上で、「長寿化を図り、建替時期の短期集中を緩和(平準化)すること、コスト削減に取り組んでいく」と方向性を示した。

また、同事業について

南薩建築友の会パト

熱中症対策万全に



安全管理の徹底を呼び掛けたパト＝南さつま市の現場で

「計画的・効率的な維持保全や定期的な点検、施設情報の一元化と保全情報提供の一元化」と説明。設備における交換部品の生産中止や省エネ改正法などで発生した問題は、「メーカーへの働き掛け

が参加。労働災害の撲滅に向け、安全管理の徹底や熱中症対策を呼び掛け、診断箇所は、京田農村研修センター屋根改修(棟木建設施工)、個人住宅新築(南森工務店施工)、22年度緊急経済対策事業・南さつま市庁舎公用車庫改修(棟木組施工)の3現場。

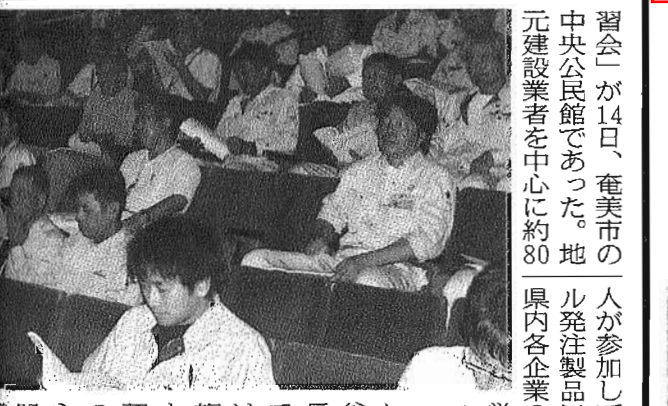
安全講習も実施

ゼロ災へ 気持ち新たに

なお午後からは、南さつま市の市民会館で安全衛生講習会も実施。会員は、鹿児島労働基準監督署の講話に耳を傾け、防災ゼロへ気持ちを新たに

した。

新技術・新工法講習会 先進技術に関心



県建設技術センター等が主催する「新技術・新工法講習会」が14日、奄美市の中央公民館であった。地元建設業者を中心に約80人が参加して、トライアル発注製品に採用された県内各企業の先進技術を学んだ。写真

はじめに同センターの長谷場良二理事長が「トライアル発注製品は、県が試験施工し効果および有用性が認められたもの。その効果や特長、また開発に至った経緯などを、資源再利用

の通り。